

経済学部 上野文庫について

上野文庫は朝日新聞社の前会長、上野精一氏が蒐集され、京都大学に寄贈された、図書、新聞のコレクションである。昭和30年の第1回以来10年間、現在までなおひきつづき総計約1万点の寄贈をうけている。

新聞事業経営者としての氏については今さらあらためていうまでもないが、「英国新聞史論」の著者であり、またJ. ミルトンの「アリオパジーティカ」を石田憲次博士・吉田新吾氏と共に邦訳されたすぐれた新聞学研究者である上野精一氏の蔵書であるこの文庫が、新聞学関係の図書のコレクションとして非常に貴重なものであることは勿論であるが、本文庫の内容はひとつに新聞学に止まらず、広く社会思想、社会思想史、経済学、法律学、政治学、歴史学、文学、倫理学、哲学などの範囲に及んでいる。その各々についてここで紹介する紙数はないが、経済学部では学部内外の研究者の協力により、「上野文庫解題目録」新聞部門1, 2, および一般部門1を完成した。これには8,792点の図書、新聞が収められている。また本文庫の沿革についてもくわしい記載があるので、中央図書館、各学部図書室で同目録をご覧いただければ、本文庫の全体の姿がご理解いただけるものと思われる。

なおまた、経済学部では寄贈者・上野精一氏のご意志にそい、本文庫が広く利用されることを願い、「上野文庫図書運用暫定規定」を定め、上記目録一般部門1の末尾にこれを附した。ご一覧の上、多くの研究者が上野文庫を活用していただくよう希望している。

次に上野文庫の蔵書中より一、二を挙げてみると、

1) ニュース・レター (1690年3月~12月)

新聞の先馳的な形として、政治・経済の中心地にいる通信者が一定の契約者に手紙の形で定期的にニュースを送った、これは一般にニュース・レターと呼ばれているが、現存しているものは多く断片的なものである。本文庫所蔵のものは上記期間中、週3回、Sir W. Ashtonなる人にあてて出されたもので3点の欠号をのぞき113通がそろっている。新聞の歴史上貴重な資料である。

2) The Spectator. No 1~555 (1711年3月~1712年12月) Sir Richard Steele と Joseph Addison 創刊の英国の新聞、本紙は新聞史上のみならず、英文学史上にも著名な新聞で、数多くのリプリント・縮刷版が作られたが、これはその第1号より終刊号まで555点の実物をそろえて1冊に製本したものである。本紙の完全なセットは非常に数少なく、貴重である。



平野国臣関係資料寄贈される

さきに二度にわたって平野国臣関係の資料を寄贈された神戸市の陣野稔氏から、また、国臣関係資料6点の寄贈を受けた。

いずれも重要な資料であるが、そのうち特に「福岡藩主の下問に答えた意見書2通」は、複雑な当時の政局に対処するための藩主としての行動、政策を委曲をつくして具体的に示した両度の意見書であって、極めて貴重な史料である。